

作文部門 最優秀作品

誹謗中傷

小中一貫三戸学園三戸中学校八年

山口桜佳

メントがたくさん積み重なり、その人を傷つけ、死という選択をさせてしまったのではないかと考えました。

現代は、インターネットなどで、様々な人たちとつながれるようになりました。実際に会わなくても、世界中の人たちとつながることができ、たくさんのおアプリも開発されています。しかし、その反面、批判的なコメントを書いて、人を傷つける人が大勢いるのも事実です。

例えば、ある芸能人の方がネットによる誹謗中傷で、自ら命を絶ってしまうという事件がありました。批判的なコメントを書いた人は、軽い気持ちで書いたのかもしれないけど、その軽い気持ちで書いた批判するコ

切だと思いません。また、自分の言葉に責任を持ち、面と向かって言えないことは、投稿しないようにすることも大切だと思います。

この一件で、誹謗中傷はよくないという流れになりました。一ヶ月後には、また、批判的なコメントをしている人が出てきました。誹謗中傷によって亡くなった人がいるにも関わらず、また、人を集中して叩き、同じことを繰り返そうとしている人がいることに驚きました。

人は、自分と同じ意見の人が大勢いると、その意見は正しいと思いきや、その一部しか知らないのに、自分は正しいと勘違いし、叩いてしまいます。しかし、一旦ふみとどまって、冷静になって、「このコメントを投稿したら相手を傷つけてしまうかも。」と考えることが大

小学生の部

小中一貫三戸学園三戸小学校五年

大澤明佳

標語部門 最優秀作品

その言葉

自分に向けて

言えるかな

中学生の部

小中一貫三戸学園三戸中学校七年

大平珠来

悲しい涙

誰かが変えよう

すてきな笑顔に

自分や他の人たちと、意見が違ったりすると、仲間外れにしたり、叩いたりする人たちもいますが、相手の意見を計り、批判するのではなく、相手の意見に、少しでも耳をかたむけ、理解まではしなくても、そういう考え方、意見があるのだと受け入れ、その上で自分の意見を主張することで、皆が安心して、ネットなどを使えるようになると思います。

悪口を言えば人が傷つくという、あたりまえのことと皆が気づき、たくさんの人と、たくさん意見共有できる社会になればいいと思いました。

人権について一緒に考えてみましょう

